

新火葬場建設候補地（答申内容）市民説明会 開催記録

○日時 令和元年6月27日 午後7時から午後9時10分まで

○場所 丹生川支所防災集会室

○参加人数 75名

○高山市職員

市民保健部

市民保健部長 矢嶋 弘治 火葬場建設推進室長 池之俣 浩一

火葬場建設推進室担当監 大川 誠 火葬場建設推進室職員 義基 現徳

丹生川支所

丹生川支所長 清水 信行 丹生川支所次長 深澤 みち代

○質疑応答の概要

参加者：

大萱の町内会である。新火葬場建設検討委員会の答申結果を重く受け止めている。一町内会で検討することではなく、丹生川町全体で考えることとして丹生川地域の連合町内会長に相談している。今回の市民説明会に参加できなかった町内会の会員から預かったことを質問する。

検討委員会のことを分かっていない会員もいる。市と検討委員会の役割分担、線引きは。

検討委員会は答申後も新火葬場の整備に関わるのか。

検討委員会の委員に、丹生川町の住民はいるか。

答申された候補地の順位に、市はどの程度の重さを置いて考えているか。

市議会や市で順位を付け、候補地を選定していくのか。今後の予定は。

高山市民文化会館と清見支所での市民説明会の議事録を開示してほしい。

市職員：

検討委員会は、有識者5名、市内の各種団体の代表34名、公募委員3名の42名に、新火葬場の基本的な構想に関する事項と、候補地の選考に関する事項の検討をしていただいた機関である。

検討委員会は候補地を答申し、一区切りとなったが、建設地の正式決定までは組織は残る。

市は、検討委員会の検討結果を精査するとともに、インフラや道路整備の経費を検討し、検討委員会の検討結果と総合的に判断する中で、建設地案を決定する。多くの委員で丁寧なプロセスを経て答申が出され、尊重すべきものと捉えている。

市民説明会の議事録は概要を公開する。

検討委員会の委員の中に、丹生川町の住民はいない。地域代表として、まちづくり協議会の代表が市域全体で4名いる。

スケジュールについて、市で再精査等を行って検討し、市議会にも諮る。いつまでにとすることは未定で、できるだけ早く進めていきたい。検討委員会が順位を付けて答申され、尊重するものとして受け止めている。

参加者：

北方の住民である。どの候補地に火葬場を整備する場合も、利用区域は高山地域、丹生川地域、国府地域の3地域か。

現在の1日あたりの利用回数を知りたい。仮に丹生川町大萱の候補地に火葬場を整備する場合、近くの運動公園で土日にスポーツ大会があると、朝早くからかなりの交通量があるから、事故が心配である。

丹生川町大萱の候補地に整備する場合、中部縦貫道とのアクセスを考えているようだが、完成予定はいつか。どういうコースで火葬場へ向かうルートを予定しているか。

市職員：

新火葬場の利用地域について、市営であり、全市民が無料である。久々野地域は久々野火葬場、国府地域は飛騨市古川町の光明苑、上宝地域は飛騨市神岡町の松ヶ丘公園斎場、荘川地域は荘川火葬場を利用するため、主な利用地域は丹生川地域、高山地域、清見地域の3地域である。

利用実績は、市全体で年間1,000件程度のうち、西洞町の現在の火葬場で700件程度、1日およそ2件になる。主な利用時間は午前11時から午後2時までである。

火葬1件あたりの交通量は、マイクロバス1台と乗用車数台程度で、渋滞の心配はないと思う。

中部縦貫道が近年中にできるとは聞いていない。

参加者：

丹生川町大萱の候補地は、飛騨の農業の中心である。トマトとハウレンソウの生産地の真ん中に火葬場を整備しようとするのは、農業に対して考慮したうえでのことか。

市職員：

検討委員会でも農業の心配をする意見があった。火葬場を整備する場合には、地域の農業委員、農家に相談し、進めたい。

参加者：

火葬場の整備に関する動きが、広報や市議会などに出ていない。前から出ているならば、どういうものが出ていたか。

市内の商店街は人や車の通行量が少なく、市税の収入が減ると思う。そうした状況にありながら、今日の説明には財政計画がないが、この候補地に整備するといくらかかるか、試算しなければならない。

一番の心配は、雨が降った時の水の処理である。雨が降り、排水した時、どんな状態になるかが説明されていない。水路が埋まり、大水害になるおそれも十分にある。

今回の市民説明会のことが、広報たかやまに出たのが6月15日で、今日の市民説明会には多くの人が集まっているが、高山地域の住民は誰も知らない。関心がなく、見落としている。

私は一番現地がよいと思う。

火葬場をどこに整備するかは、検討委員会の委員の有識者ではなく、市民に聞くほうがよい。委員にどれだけ報酬を払ったか。

市の事業の進め方は、言いたいことを隠し、調子のよいことだけ言っている。

丹生川町での市民説明会の開催が、この日が初めてというのは順序がおかしい。

市職員：

財政計画がないとの意見について、検討委員会で経費も検討しており、現地を視察して取付道路の必要性や、造成工事の必要性を検討し、評価した。概算を算出しての検討は、今後の市の役割と考えている。

どの候補地でも雨の心配は必要で、排水設備をしっかりと整備できるように考えていく。

検討委員会の委員に報酬、旅費等を支払っており、3年間で約1,000万円程度を支出した。

参加者：

雨が何ミリ、何十ミリ降った場合、どのように排出されるかという計画がない。

説明会をどんどんやらなくては、これで終わりになってしまう気がする。市民の意見を聞いてほしい。

市職員：

しっかりと広報をする。また、検討委員会の会議は公開で行ってきた。

参加者：

丹生川町大萱の候補地は、特に冬に、北風によって養豚場からにおいが届くことを考慮したか。

資料5の選考基準の6番「上下水道や電気などのインフラの整備状況」に、上水道の整備に数千万円とあるが、どこから工事をする想定か。候補地周辺ではポンプアップしており、その水量も多くないのでは。

市職員：

検討委員会は、冬にも候補地を視察した。その時には、におわなかったということもあるが、議論はされなかった。

上水道については、各々の候補地について、どの辺りまで給水管が来ているかという情報を検討委員会へ提供し、検討委員会で検討した。

参加者：

たまたま視察の時に、におわなかったならば仕方がない。

上水道については、ポンプアップの地点までの工事としての計算ではなかったということか。

市職員：

検討委員会では、何百メートル離れているという情報で検討した。

参加者：

これは大事なことで、資料5で数千万円としている経費がもっと必要となれば、順位に影響があるのでは。

市職員：

経費の概算はこれから市が検討する。

参加者：

近隣に田畑を持っている。今回の説明内容は、市の火葬場整備のドラマ2である。ドラマ1は、市長のトップダウンでスカイパークに作るように進め、広報たかやまに掲載した。平成26年6月1日の広報に掲載したにも関わらず、5月26日、28日、30日の3日間、地元説明会を開催し、地元固めをしている。このパート1について何がどうなったのか、誰が責任をとったのか。

その後、あらためて評価をしたところ、スカイパークは2位になり、国府町瓜巢の候補地が1位になったが、国府町瓜巢の候補地は十分討議したか。

市職員：

当時、スカイパークを最終候補地にし、芝生の広場の3分の1に火葬場を整備しようとした。整備する敷地を先に決め、どのような建物を整備するかを、地域の皆さんと考えようとした。その敷地に火葬場が整備できるかとの意見があり、建物を検討したところ、想定した敷地面積では十分ではないと分かった。

当時、市で点数を付けて決めたが、点数の項目に工事費の概算があり、進入路の取り付け方が何通りもあり、方法によって金額が変わるため、点数が変わってしまうことから、スカイパークを白紙撤回した。

当時、2位が国府町瓜巢の候補地だったが、点数の評価の仕方自体に問題があったため、1位を取り下げて2位にとはせず、白紙撤回した。

参加者：

国府町瓜巢の候補地は検討しなかったということか。

市職員：

国府町瓜巢の候補地を含め、当時の11カ所の候補地のすべての検討はしている。

参加者：

スカイパークの3分の1ほど、3,000平方メートルでよいと検討したら、5,000平方メートルが必要となり、検討委員会が検討したら、9,000平方メートルが必要とした。敷地面積が変わっているが、何を基準に計算をしているのか。施設が大きくなるほど、お金がかかる。

西洞町の現在の火葬場の敷地は、これまで市が苦勞して少しずつ確保した土地だが、何に利用するか。過去の積み上げを無視し、目先を変えるのはいかがなものか。

市職員：

西洞町の現在の火葬場の整備や運営には、その時々の方々の皆さんと職員が関わり、歴史的背景もあると認識している。

検討委員会での検討にあたり、まずは、過去に市が行った選考方法がよかったのかを検証した。検証を踏まえて公募要件を定め、候補地を公募した。検討委員会で選考し、3カ所の候補地に順位を付け、答申した。今後、市で検討するにあたり、今回の市民説明会での意見をしっかり受け止め、親しんでいただける火葬場をいっしょに作り上げていきたい。

参加者：

火葬場からは、毒性が強いとされるダイオキシン類が発生するため、市の火葬場建設推進室に質問したところ、西洞町の現在の火葬場では測定していないとのことだった。過去の火葬場の整備に関する市民説明会のインターネットの動画に、ダイオキシン類を、将来も測定する気持ちはないとあった。インターネットの情報であり、正しいかは分からないが、環境問題が重要視される中、どのように考えているか。

市職員：

どの場所に建てるかに関わらず、十分な対策が必要と考えている。具体的な設備などの検討はこれからだが、最新設備の整備を進めたい。

参加者：

現在の火葬場のデータは、我々も安心するので測定していただきたい。

市職員：

西洞町の現在の火葬場では測定していない。大氣中にダイオキシン類があるかは、市内の何カ所かで測っている。

参加者：

その測定の手データは、今度の説明会で提出してほしい。

市職員：

大氣中のデータを測っており、確認する。

参加者：

放射能は大々的に広報に載せたが、ダイオキシン類も、農業が第一基盤だから、データを公表してほしい。

資料5の選考基準の14番「希少な動植物の有無」について、どの候補地も影響は小さいとあるが、どのような調査をしたか。

市職員：

地域の第一人者が5件の候補地を簡易に見て、所見を述べた。

大きな森林開発を伴う候補地はなく、建設地に決まった後には現状を把握する調査が必要だが、建設地の決定には大きな問題はないという所見だった。

参加者：

どなたが調査をしたか。

市職員：

個人の名前は控えさせていただきたい。

参加者：

見ただけでは分からない。建設時に環境調査をしっかりとやっていただきたい。丹生川ダムの際は、オオタカが巣を作っていたので、オープン掘削で農道を作る予定を変更し、トンネル化した。

憶測だが、検討委員会が公募をすると言う前に、丹生川町大萱の候補地を寄附するとの申し出が届いていたのでは。

市職員：

そういったことはない。

参加者：

検討委員会の会議の出席率は、何パーセントぐらいか。

市職員：

おおむね8割程度だった。

参加者：

大萱に住んでいる。資料5の選考基準の1番「故人の旅立ちにふさわしい周辺環境」と2番「候補地からの景観」が重複しているようだが、住民の環境などに関しては、15番「住宅、老人福祉施設、病院及び学校などの有無」に含まれるだけで、選考基準はおかしいのでは。

丹生川町大萱の候補地周辺は大きな農業団地で、両脇にも2つの農業団地がある。農家が集まっていることを踏まえて選考したとうかがえないが、おかしいと思う。

景観にこだわるならば、周りが農地であること、企業やスポーツ施設があることも、選考基準の2番「候補地からの景観」を二重丸とするにはふさわしくない。実際に候補地に行ったが、くぼ地で山に囲まれ、景色がよいとは思えない。自分の親や兄弟が

亡くなった時、この景色はこの人を送るにふさわしいかを重視するか。それよりも周辺の農家や住民の感情を優先すべきと思う。

選考基準の6番「上下水道や電気などのインフラの整備状況」の、上水道整備の費用が数千万円というのがアバウトであり、ポンプアップをするかしないかでは大分違うと思うから、給水管までの距離で評価する方法は間違っていると思う。

アクセス道について、丹生川町に高速道路がいつ建設されるかが未定でありながら、改善が見込まれるとするのはおかしい。

一番大事なのは、資料6の地図でも分かるように、丹生川町大萱の候補地から民家が近いことは、候補地としてふさわしくない。200メートルを切っているのでは。丹生川町大萱ではこれまで説明会もないままに進めていることは、どうかと思う。

市職員：

資料5の15項目の選考基準の二重丸などの評価は、検討委員会の考え方である。選考基準ごとにこういった考え方をして、全体を総合的に判断し、順位を付けた答申を受け、市で概算などはしっかり検討する。

答申を受けたこの時点で、市民の皆さんに説明しなければならないと思い、このたび市民説明会を開催した。

住宅に近いことに関し、大事なことであり検討しなくてはならないから、選考基準の15番「住宅、老人福祉施設、病院及び学校などの有無」がある。住宅までの距離を検討し、評価した。

参加者：

丹生川町大萱の候補地のすぐ近くで農業をしており、1日のうち多くの時間を過ごしている。

資料5の選考基準の15番「住宅、老人福祉施設、病院及び学校などの有無」に関し、候補地の近くによい公園があり、休日には家族連れが多く利用し、保育園からバスでくることがもある。大きなグラウンドも近くにあり、野球の試合がある時など、子どもも家族もたいへんな人数が利用する。昨日は高齢者のスポーツ大会があり、たくさん的高齢者が利用した。老人福祉施設や学校はないものの、近隣の施設は子どもも高齢者も多く利用するが、関係団体に説明し、意見を聞く予定はあるか。

市職員：

答申を受け、市で検討して建設地案1カ所が決定したら、地域の皆さんに説明する予定である。

参加者：

資料5の選考基準の15番に配慮を要するとありながら、良好として丸が付いており、矛盾する、おかしいことと思う。

話がまとまり次第、各方面に話をするとのことだが、決定してからでない要望が

言えないのか。具体的な要望を聞くのは1カ所に決定した後か。

市職員：

今日の市民説明会は、検討委員会の検討結果を報告するものであるが、伺った意見はしっかり受け止める。

参加者：

家は丹生川町ではないが、丹生川町大萱の候補地の近くで苗を作っている。丹生川町大萱の候補地は土地の寄附の申し出があるとのことだが、火葬場を建てるから寄附するのか、所有者が使わなくなったから寄附するのか。

市職員：

火葬場の用地として寄附するとの申し出である。

参加者：

候補地の所有者は、今までの流れをみて、大変そうだから候補地を寄附するということか。

市職員：

理由は分からない。

参加者：

丹生川町大萱の候補地に火葬場が整備されるかどうかに関し、私は地域の方に右ならえ、の考えであるが、近くに勤める者として、お願いを聞いていただきたい。

谷の下から湧き水をポンプアップしている。水が全然なく、飲み水と栽培に使っている。水が枯渇すると仕事ができなくなることを、頭に入れておいてほしい。

候補地周辺の道路はたくさんの人が利用する。道が細く、すれ違うのに危ないことがあるが、春先や夏、地元の農家が頻繁に通る。10トン車も、昼ごろ、夏場は1週間に2回か3回かは走る。火葬場を整備するならば道路拡張を考えてほしい。

候補地周辺ではイノシシが出没して畦畔を掘るが、道路の下の畦畔は市で面倒をみないため、私たちが修理しており、考慮してほしい。

上水道と下水道も、火葬場を整備するならば、恩恵にあずかりたいと、ふと思う。

市職員：

意見として承る。

参加者：

3カ所の候補地が答申書に示され、どういう形で1カ所に絞り込んでいくのか。ステップ、段階は。

市職員：

答申を受け、市は精査とともに、概算経費等の検討をし、検討委員会の検討結果と総合的に判断し、建設地案1カ所を決定したい。まとまったら市議会に諮り、その後

に地域の皆さんに説明する流れを考えている。

参加者：

北方町内会の役員をしている。5月14日の第15回検討委員会で、1人の委員から、**資料5**の二重丸、三角などの評価を同等に扱ってよいかと意見があった。検討委員会が、15項目の選考基準の点数配分をあえて避けるのも分からなくはなく、どの選考基準を重んじるかは意見が分かれる。

ただ、具体性のある、市街地からの移動距離、インフラ、幹線道路からのアクセスは、個人差が少ない。旧市内の人口が多いから、市街地に近いほうがよく、利便性においては、数カ所のセレモニーホールから候補地までの距離が関心事である。第15回検討委員会で発言した委員は、丹生川町や清見町のように遠いところに作ってはならないとは言わなかったが、そうしたニュアンスがあったと解釈した。選ばれた候補地が、地元の人が喜ばず、かつ、多くの市民が遠いと考えることのないよう、精査してほしい。

検討委員会が3年間をかけて検討して答申したのだから、よほどのことがない限りは順位がひっくり返るとは思わない。地元としては、意見の1つ1つに答えられるよう、市に準備をしてほしい。

他の候補地に比べ、丹生川町大萱の候補地は経費がかからないことがポイントとしているが、ダイオキシン類の対策、排水設備を考えたら、想定以上に経費が必要となるかもしれない。その場合、経費がかからないことを理由に決めたために、限られた経費で整備することにならないか。農業の従事者の心配や、北方の寺院の裏の辺りはハザードマップで危険地域とされ、土砂災害を心配しているが、それらの対策に十分な経費を試算したうえで、この候補地でよいかという説明をしてほしい。

市職員：

意見として承る。必要なことをしっかり検討していきたい。

参加者：

資料3について、「基本構想の策定」に「火葬炉4基、待合室4室などを設置。不足のない敷地面積の試算：11,800平方メートル」とあるが、1日に2件の火葬に対し、過大では。

市職員：

火葬が0件の日も、4、5件の日もある。地域の慣習として、葬儀を11時ごろに行い、その後の時間帯に火葬が集中することがあり、4炉が必要とした。

参加者：

火葬場が混んでいるために葬儀を10時から始めることもある。久々野火葬場や飛驒市古川町の光明苑を使うこともある。お互い助け合えば大きな金がかかるものは必

要ない。

資料3の「基本構想の策定」に「不足のない敷地面積の試算：11,800平方メートル」とあるが、「候補地の公募」には「9,000平方メートル程度は確保できること」とあり、足りない。

市職員：

基本構想の策定にあたり、火葬場のモデルを作成し、その間取りからどのぐらいの敷地があるかを試算した。火葬炉4基、待合室4部屋、多目的な機能を持つ部屋も必要となるかもしれないという考えで、試算した。その3つの部門の間取り図から試算した敷地面積が、11,800平方メートルだった。

多目的な機能を持つ部屋は、実際に必要か分からないし、芝生広場などを作るかも知れない。そこで、多目的室の部分の面積は引き、最低限必要な火葬炉4基と待合室と最後のお別れの部屋の間取りで試算をすると、約9,000平方メートルの敷地が必要であることから、土地面積を9,000平方メートル程度として公募した。

参加者：

資料5の選考基準の3番「公募要件に示した敷地面積の確保状況」について、丹生川町大萱の候補地は「十分な面積があり、将来の建て替え用地の確保も可能」とある。将来の心配をする必要がないのでは。無駄な投資と思う。

市職員：

検討委員会でこういった検討をした。

参加者：

検討委員会の答申を真に受け、将来の計画を練らないでほしい。決めるのは市である。

市職員：

これは検討委員会の検討である。検討委員会の答申を受け、尊重して進める。

参加者：

高山市資源リサイクルセンターでは焼却施設の延命工事がされ、寿命を7年延ばし、その間の技術の進歩を期待していると言われた。火葬場も延命の検討をしたか。

市職員：

火葬設備はバーナーで使う消耗設備であり、随時、部品を交換し、延命を図っている。建て替えは、待合設備などの新たな市民ニーズに対応した施設を作りたいというものである。

参加者：

新しい炉でも数年使えば更新しなくてはならないのか。

市職員：

西洞町の現在の火葬場では、3年に1度ほどでレンガやバーナーを交換している。

参加者：

3年で変えるならば3年先だけ考え、また変えていくのか。すると現況で延命できるのでは。待合室は我慢するとして。節約する考えを持ってほしい。

市職員：

必要以上の設備投資は考えておらず、市民の皆さんが利用するのに必要なものをしっかり整備していく予定である。意見のあった排水設備などはしっかり整備する必要があるが、過大に整備することはない。

火葬炉は高温で燃やすため、定期的なメンテナンスを、今までも今後も行っていく。

参加者：

いろいろな意見を出され、検討委員会の答申が完全ではないと思う節がたくさんある。いろいろな課題があるが、次回、説明できるようにしてほしい。

建設地を決定してから住民説明会を開催する予定であるとしか捉えられないが、決定前に話す機会を設けることは可能か。

市職員：

検討委員会の答申を受け、今度は市で、市民説明会での意見も検討し、建設地案を決め、説明する。

参加者：

決定前に、またこのような話し合う場が設けられるか。

市職員：

はい。これからも意見をお聞きしながら検討し、建設地案1カ所を決めた後、説明する。そこで決定ではないということである。

参加者：

丹生川町大萱の候補地について、無償提供は聞こえがよいが、市が借りを作る結果にならないように。

以上